

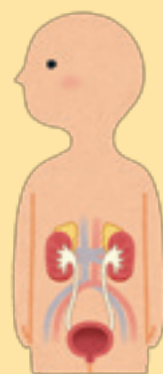


大久保病院だより

腎臓移植について

移植外科・泌尿器科

白川浩希

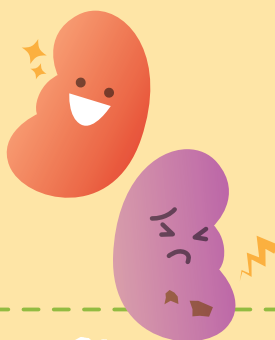


腎臓は左右 1 個ずつある尿を作る大切な臓器です。人間は毎日、食事と水分を摂取して生きており、その結果、毎日大量の毒素（尿毒素）と水分が体内に生じます。これらを尿として捨ててくれているのが腎臓です。そのため、腎臓の働きが悪くなる（慢性腎不全）と、体内に尿毒素と水分が蓄積していきます。その状態がさらに進行して末期腎不全になれば、生命がおびやかされる状態となり、腎臓の替わりとなる腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）が必要となります。

そこで、今回は当院で施行している生体腎移植のお話をしたいと思います。

以前は（1960年頃）、現在のような優れた薬（免疫抑制剤）がなかったので、少しでも条件をよくするために、ドナー（腎臓を提供する人）とレシピエント（腎移植を受ける人）は HLA という遺伝子の型がより一致しやすい親族間（両親や兄弟姉妹）で、かつ血液型が同型の人に限定されていました。しかし、その後、新しい免疫抑制剤の登場により、血液型が異なる組み合わせ（血液型不適合腎移植）や、HLA の異なる配偶者との組み合わせ（夫婦間腎移植）も可能となりました。また最近ではレシピエントおよびドナーも、60、70 歳代の患者さんが増加傾向にあります。手術前に十分な検査を行ない、安全に手術が施行可能か評価することが前提ですが、医学の進歩に伴い高齢の方でもドナーあるいはレシピエントとして安全に移植医療が行えるようになりました。また、ドナーの腎臓摘出術は内視鏡で手術を行うため傷も小さく術後の疼痛も少なく、手術後 4 日目に退院が可能です。ドナーの患者さんも退院後は定期的に（3～6 ヶ月に 1 回）受診していただき健康管理をさせていただきます。レシピエントは拒絶反応を抑えるために免疫抑制剤を内服し続けなければなりません。透析療法と比較して、時間的拘束や飲水・食事制限も緩やかで、自由な生活を送ることが可能です。また透析療法よりも合併症の発症頻度が少ないため、長期的な観点からも体に優しい治療と言えます。

もし、なにか腎移植に関して説明だけでも聞いてみたいという方がいらっしゃれば、毎週金曜日午後の「**腎移植術前相談外来**」にいらしてください。そこで詳しくお話をさせていただきます。





新任医師紹介

脳神経外科 阿南英典

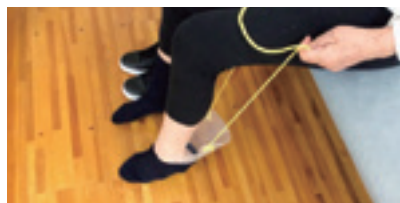


この度 2017 年 4 月 16 日付で脳神経外科副医長職に着任いたしました **阿南英典**（あなみ ひでのり）と申します。大久保病院着任以前は東京女子医科大学脳神経外科教室に所属し、大学病院や関連病院で脳神経外科疾患全般について診療を行って来ました。その中でも、脳血管障害の外科治療を中心にっており、脳血管内治療専門医としてカテーテル治療も積極的に行っています。複雑な脳血管障害に対しても、東京女子医科大学脳神経外科と協力しながら、治療にあたっています。

脳神経外科疾患についてご相談などありましたら、紹介状をご用意いただき、予約の上お気軽にご相談ください。どうぞよろしくお願いいたします。

13 階地域包括ケア病棟 ～集団レクリエーション～

当院の地域包括ケア病棟には、リハビリ科から理学療法士が一名配置されています。本来のリハビリ室で行う運動に加え、この理学療法士が病棟でも運動することで、患者さんの少しでも早い回復を目指しています。また、リハビリ科と看護師と合同で実際の食事場面を確認したり、患者さん同士で創作活動を行うなど、様々な工夫の下、充実した入院生活が送られることを目指しています。特に、創作活動は「人に役立つものづくり」を目標に、季節の飾り、杖立て、靴下が履きやすくなる自助具、本のしおりなどを作成して、実際に病院内で配布・使用しており、この活動に参加した患者さんからは好評価を頂いています。今後も職員で知恵を出し合いながら、よりよい活動を目指していきます。



公益財団法人 東京都保健医療公社

大久保病院

〒160-8488

東京都新宿区歌舞伎町2-44-1

TEL 03-5273-7711(代表)

URL <http://www.ohkubohospital.jp>

